

2025 九州大学（前期）国語（文学部）概評

出題分析		
試験時間 120 分	配点 150 点	大問数 4 題（現代文 1、古文 2、漢文 1）
分量（昨年比較）〔減少 同程度 <b>増加</b> 〕		難易度変化（昨年比較）〔易化 同程度 <b>難化</b> 〕
<p><b>【概評】</b></p> <p>〈現代文〉</p> <p>第一問は、本文の分量は昨年から約 600 字増加した。設問は、総数は昨年と同じ 6 問であったが、解答欄が行のみの形式に戻り、記述の分量は、昨年は 14 行+80 字+記号問題であったのが今年 は 25 行となり、大幅に増加した。本文の内容は、平易な評論であった。</p> <p>〈古文〉</p> <p>第二問は、本文字数 615 字と昨年の共通問題（第三問）・約 580 字からやや増加した。設問 数は 6 問から 7 問に増加。説明問題が追加された。</p> <p>第三問は、本文字数は 916 字と、昨年の文学部専用問題（第二問）・約 980 字からやや減少 したが、注釈の分量は増加。設問数は 5 問から 6 問に増え、全問記述解答式なので記述量も 増加している。</p> <p>〈漢文〉</p> <p>第四問の本文字数は、【文章Ⅰ】52 字・【文章Ⅱ】161 字・計 213 字と、昨年の 220 字と大 きく変わらない。設問数は昨年同様 7 問だが、枝問が 1 問増え、記述量は増加した。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文（評論） 尹雄大『聞くこと、話 すこと。——人が本当 のことを口にすると き』	インタビューセッションにおいて聞き手が「完 全に聞く」ために必要なことを論じた文章。平 易な文章であったが、かなり広い範囲から必要 な要素を読み取る必要があり、解答欄を埋める のは簡単ではない問題であった。内容説明（ど ういうことか）4 問、理由説明（なぜか）2 問。	やや難
二	古文（日記） 阿仏尼『うたたね』	鎌倉時代中期の日記文学。出家後、病のために 住まいを移そうとする阿仏尼の心中を描く。本 文の展開自体に複雑なところはないが、婉曲な 表現が読解しにくく、設問にもどのように答 えるか迷いやすいものがあつた。問 6 は行動 に表れた筆者の思いを説明する問題。筆者の 境遇を踏まえた丁寧な記述が求められる。現 代語訳 1 問、文法問題 1 問、指示部の説明 1 問、内容説明 2 問、和歌 1 問、文学史 1 問。	標準

設問別講評			
三	古文（紀行文） 木下長嘯子『九州の道の記』	昨年は第二問で出題された文学部専用問題が、第三問での出題に戻った。安土桃山末期から江戸時代に活躍した歌人による紀行文。文禄の役への従軍のために九州に下向した作者が、名所旧跡をめぐる様を描く。本文内容・設問ともに平易だが、記述量が多い。和歌一首全体の解釈を問う設問が、5年ぶりに出題された。現代語訳 1 問、内容説明 4 問、和歌の技法・現代語訳 1 問。	標準
四	漢文（歴史書） 陳寿『三国志』 裴松之 注	呉の孫権に仕えた諸葛瑾のエピソード。昨年に引き続き、二つのテキストを参照して答える問題が出題された。人物関係の把握がやや難しく、『三国志』に関する基本的な知識の有無も読解に影響したと思われる。問 6 の人物について説明する問題は、字数を考慮し、文章 I ・文章 II から要素を過不足なく抜き出す必要がある。書き下し文と内容説明 1 問、内容説明 2 問、返り点 1 問、指示内容を問う現代語訳 1 問、語句の読み方 1 問、文学史 1 問。	やや難

## 合格のための学習法

## 〈現代文〉

記述解答量が多いが、学習の初期段階では内容重視の丁寧な解答を心がけ、速読・速解の練習はある程度記述力がついてから行なうようにした方がよい。記述力をつけるには要約練習をするのが有効で、できれば指導者に添削してもらうことが望ましい。

## 〈古文〉

単語・文法など基礎事項の習得と、文章の背景の理解に努め、丁寧な訳文書きの練習を重ねて解釈力を養おう。その他、文学史の知識や和歌の修辞技巧に対する習熟も求められる。

## 〈漢文〉

重要語・句法など基礎事項の習得、書き下し・現代語訳の訓練、要約練習を怠らないこと。国語便覧や漢和辞典の巻末付録などを使って文学史の知識を蓄えることも忘れずに。